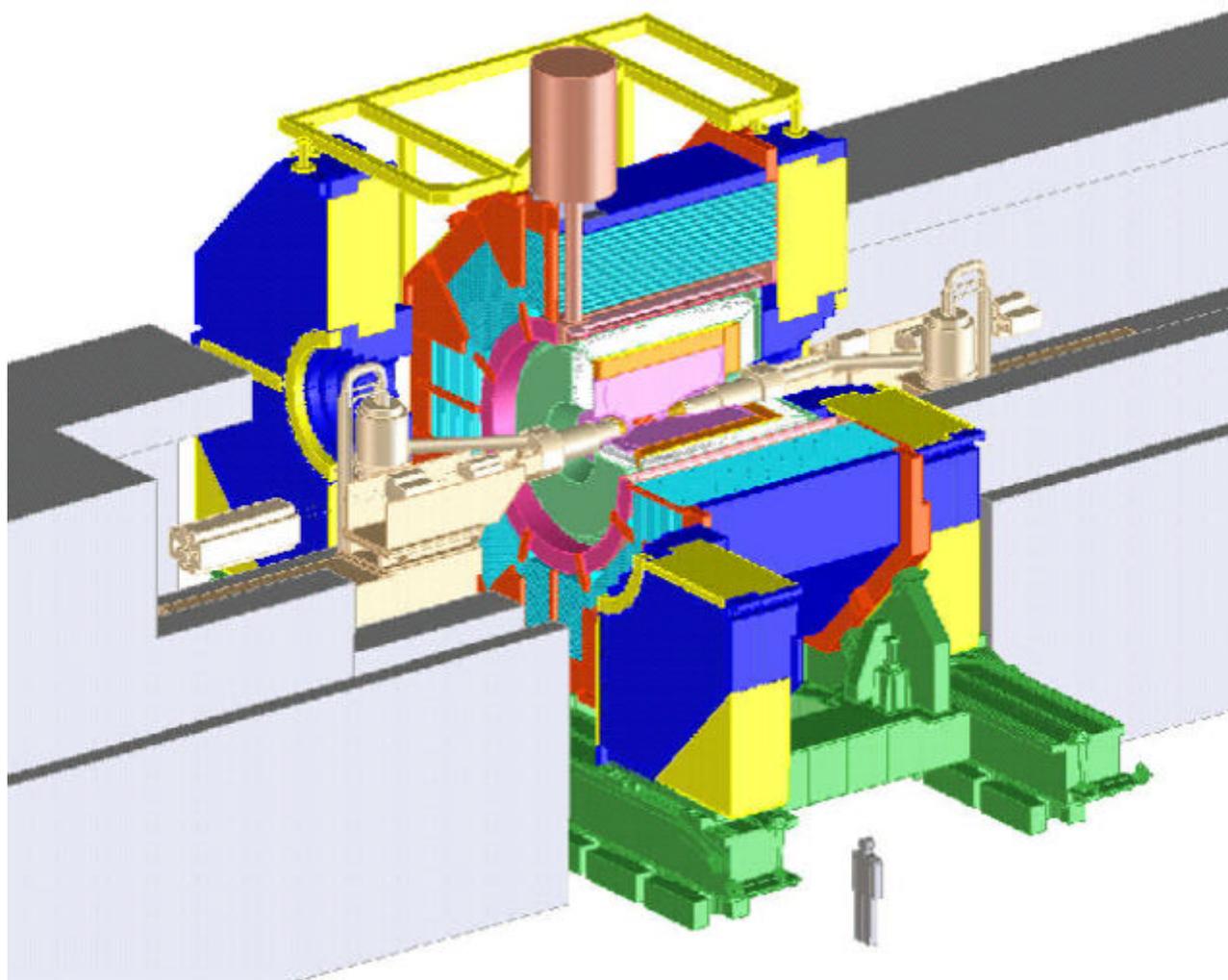


KEK 技術部報告集

(~ 2000 [H12]年度)



BELLE 構造体 3D モデル

高エネルギー加速器研究機構
技術部

も く じ

| | |
|--------------------|-------|
| はじめに | |
| 1 . KEK技術賞 | |
| 2 . KEK技術交流会 | |
| 3 . 技術部セミナー | |
| 4 . 共同開発研究プロジェクト | |
| 5 . 技術研究会 | |
| 6 . 技術部シンポジウム | |
| 7 . 受け入れ研修 | |
| 8 . 専門研修 | |
| 9 . 語学研修 | |
| 10 . 専門官研修 | |
| 11 . 専門職員研修 | |
| 12 . 体験学習 | |
| 13 . 技術部組織 | |
| 14 . その他の項目 | |
| 14 . 1 独立行政法人化関係 | |
| 14 . 2 技術部ホームページ関係 | |
| 編集後記 | |

はじめに

技術部長 三国 晃

K E K技術部は1977年 4月に発足したので、本年 3月末日で 25周年を迎えることになる。

この間、K E Kは拡充・改組をおこないながら、これまでに数多くの研究成果を内外に発信して、質・量ともに国際的規模の学術研究機関として発展してきた。これには技術部に所属する技術職員の「縁の下での力持ち」的、研究支援による貢献も大きいと自負している。

技術職員は技術部という組織に所属しながら、研究現場である研究所・研究施設に配属されて研究者グループと一体で職務に専念している。このことは業務を遂行する上では非常に実効的で効率が良い。しかし、技術者間における技術継承を考えるとときに懸念される一面もある。

新世紀を迎えて、国立研究機関の独立行政法人化、特殊法人の統廃合、更には国立大学等の法人化の動向等、国費使用に関わる組織の変革・改革が進んでいる。

そんな折に、技術部もこれを一つの節目と捕らえて、今までおこなってきた活動をふり返り、更なる発展の指針とするために技術報告集を発行することにした。

技術部の使命は日進月歩に発展する技術に対応するために必要な「研修、技術交流、情報収集等」を通じて技術の研鑽をおこない、技術職員全体の技術力の向上を図り、本研究機構の設置目的である大学共同利用研究の推進に技術をもって貢献することである。これらの「研修、技術交流、情報収集等」は個人の努力だけでは限界があり、組織として企画・立案・実行することが意義深い。K E Kの大型装置等に係わる職務は個人プレーの集合体で成り立っており、個々の協力が基本である。このことは技術部の組織運営にも通じるものがあり、今後ますます減少が予想される技術職員数や高齢化による技術の空洞化等に対処するためにも、これからは技術職員間の縦・横の交流が重要になってくる。このような視点からも技術部の活動が皆様の協力によって益々充実していくことを願っている。